

令和5年度 日本語学習会が始まります！

Welcome to Japanese class !

がくしゅうかい ちゅうぶちく がいこく かに にちじょうせいかつ
この学習会は、中部地区にくらす外国にルーツのある方が、日常生活に
ひつよう にほんご まな ばしょ がくしゅう こうりゅうかつどう
必要な日本語を学ぶ場所です。学習だけでなく、交流活動も行っています。

きがる
ぜひお気軽におこしてください！

Would you like to learn Japanese
with us?

Please feel free to come!



だいかい れいわねん がつ にち すい
第1回 令和5年 4月5日(水) 19:30~21:00
ばしょ くらよしじんけんぶんか
場所 倉吉市人権文化センター

令和5年度 手話教室を開催します！

手話は聴覚に障害がある方とのコミュニケーションを取る為の大切な身近な言語の一つです。

基礎から学ぶことができますので、初めて手話に触れる方でも、安心してご参加いただけます。一緒に楽しく手話を学んでみませんか？

第1回 令和5年 5月11日(木)
10:00~11:00
場所 倉吉市人権文化センター

「お手伝いしますか？」 「ありがとう」



どちらも倉吉市人権文化センター(☎22-4768)
までお申し込みください！

ま ず な

倉吉市人権文化センターだより

2023年4月1日 発行 No.147号

発行所：倉吉市人権文化センター

住所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net



倉吉市人権文化センターへお越しください！

倉吉市人権文化センターは、部落問題をはじめ、
さまざまな人権問題の学習・啓発・交流の場と
して誰もが気軽に立ち寄れる人権文化センター
をめざしています。

今年度は昨年以上にいろいろな事業を開催
しながら、子どもから大人までの方が参加出来る地域に開かれたコミュニティセンターとして
取り組んでいきます。お気軽にお越し下さい。



2023年度事業計画

★相談事業★

身近な相談窓口として、市民に寄り添いながら応じていきます。
人権相談・就労相談
教育相談・生活相談など

★地域交流事業★

地域の仲間のつながりや居場所づくりの居場所づくりとして
地域サロン (年2回程度)
地域食堂 (子どもから大人まで)

★地域福祉事業★

共生社会の実現にめざした
取り組み
手話教室 (5月~11月)
日本語教室 (4月~2024.3月)
外国にルーツがある方との交流

★人権啓発事業★

さまざまな人権課題に向けて研修会等を開催をしていきます。
部落問題・子どもの人権 他



全国水平社博物館を訪ねてみよう。

全国水平社創立大会「宣言」発祥の地



1986年、柏原では、同和対策事業により地区改良事業が行われていきます。村の様子が変わっていく姿を見た村の人たちは、水平社の思いを忘れてはいけ



ない、この歴史を残していきたい。残すべきだと考え、この地に水平社博物館を建設しました。小学生や高校生をはじめ人権学習を学ぶ原点として多くの人がこの地を訪れ部落差別とたたかってきた水平社の人たちの運動を知り、これからの学びを自分の生き方につなげる学びをしてきました。

水平社博物館（2022年3月リニューアルオープン）

現在、世界では人権意識が高まっています。日本においても2016年部落差別解消法、障がい者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法の人権3法が制定されました。また、2019年にはアイヌ施策推進法も施行され、LGBTの人権についても広く議論されています。

そうした現状も踏まえ、これからはさまざまな人権問題を発信していく役割としてリニューアルされました。

館内では、もちろん水平社運動を展開していますが、小学生や中学生などがよりわかりやすく理解するため、「鬼滅（きめつ）の刃」やONE（ワン）PIECE（ピース）の本の中から言葉を拾い照らし合わせる部分や最後には、民族や多様性など共生SGDS（持続可能な開発目標）へとつなげてありました。



「鬼滅の刃」・・・《永遠というのは人の想（おも）いだ 人の想いこそが永遠であり 不滅なんだよ》
ONE（ワン）PIECE（ピース）・・・異形を恐れるのは己の無知ゆえ！
歌手 ポブ マリー・・・stand up for your right（君の権利のために立ち上がれ）

フィールドワーク（水平社にかかわるスポットを歩く）

水平社博物館を出るとすぐ橋があり、西光寺に続きます。その左端に「碑文」と書かれた碑があります。

明治4年（1827年）幕府は太政官布告を発令し、四民平等による「解放令」を出しました。

しかし、解放令を反対した庄屋側が、あのお触れは5万日日延べになったと嘘を伝えた出来事がありました。解放令は、解放どころか被差別部落の人たちの特権とされていたいろいろな仕事の権利を奪い、それまで豊かに過ごしていた生活が貧困へと変わり、苦しい生活となりました。また、全国各地では解放令反対一揆が起こり、尊い命が奪われていきました。2008年9月3日、5万日に当たることからこの思いを忘れることなく新たに解放をめざしていこうという意味も込め建てられました。

西光寺（さいこうじ）



ここは西光寺、1895年西光寺の長男 西光万吉（本名：清原一隆）の生家でもあります。1748年、戸数わずか38軒だった頃に建立しました。その頃の岩崎村は、下駄や雪駄づくり膠（にかわ）の生産などで生計をしており、西光寺を建てるほどの豊かさもあったようです。



燕神社（つばめじんじや）

西光寺の東門を出ると小高い山があり、ぜいぜい息を吐きながら階段を上ると燕神社があります。この地は岩崎村の発祥地であり人々の暮らしが広がり、家が多くなるにつれて西光寺の方へ村が広がったと言われています。

きっかけは、「村にはみんなが集うところがない、楽しむ場所が欲しい」といった声をひろい、解放令から50年後の1921年に完成しました。若い青年たちが集まって話し合う場所となったのです。（西光万吉たちの相談場所にもなったのです）

小高い丘から下を見ると、川が3本合流し、岩崎村の産業であった弊牛馬の解体や膠の生産をするにはこの豊富な水量が産業を支えてきた「水」であったことがわかります。



水平社記念碑 反対側のなだらかな階段を下り、村の中へと続きます。「水平社記念碑」です。

建設には、全国水平社創立50周年をめざしていましたが3年後の1975年3月3日に燕神社を背にして、阪本清一郎の土地に建立しました。

阪本清一郎は、膠工場をして莫大な資産を築いていました。

このことが水平社に向けての費用も捻出されていたのでしょうか。

阪本清一郎は膠の仕事をしなが、当時写真フィルムの開発にも研究を重ね1937年には、阪本自身が開発に成功しています。そのすばらしい技術は富士写真フィルムに売却しました。

阪本は解放運動の優れた活動家でもあり、科学者・作家という多面的な才能の持ちぬでした。



全国水平社創立まで

柏原の三青年、阪本清一郎、西光万吉、駒井喜作らは、1921年、雑誌「解放」に載った佐野学氏による「解放の原則」自主的部落解放運動に大きな衝撃を受け、佐野学を訪ねていきます。

今迄、部落責任論では部落差別はなくなると考えていた西光は、佐野の部落民自身が立ち上がって不当な差別を廃止する要求運動を起こさないといけないという考え方に衝撃を受けました。早速に村の青年たちと話し合い、駒井喜作玄関前に「水平社創立事務所」の看板を立て創立に向けて準備を始めます。

それまでもいろいろな運動をしてきていたので、家の周りにはいつも巡査が見張っていたといいます。

「水平社」の由来は、あらゆる尺度は人間が作ってきたもの、その差を示さないものは水平であることから名付けられました。また、よき日は、佐野学の文章から引用されました。

全国水平社創立大会をめざして、柏原の多くの青年たちが賛同し参加していきます。そうした中で西光万吉は宣言に向けて文章を考えていきますがなかなか進みません。

西光万吉も解放運動を前面に出しながら活動していたので、気になる人物として見張られていました。そんな様子を見ていた西光寺の住職は、村の檀家たちも気にしているからおまえは家を出て違うところに行きなさいということになり大阪へ行きました。

いろいろな書物や意見を聞きながら水平社宣言を考えたのは、2階にある物干し場であったと言われてい

ます。こうして、佐野学に会ってから、半年近くで「宣言」が完成し3月には水平社創立大会が開かれます。「人の世に熟あれ 人間に光かれ」と結んだ宣言は、大会後、人々は部落差別はおかしいと気づきはじまりました。全国各地で解放運動が広がっていきます。

解放運動の先駆者となった西光万吉をはじめ柏原の青年たちの解放運動は100年を迎えた今でも、多くの人たちに意識変革や感動を与えてくれます。原点に戻り学びを深めたいものです。